東邦大学医療センター佐倉病院
公開講座

認知症がすべてを壊してしまうわけではない。そこには素晴らしいものが残されていることが多いのです。

神経内科
教授
榊原 隆次

会場の様子

21 世紀は脳の世紀ともいわれます。高齢者の運転中事故・逆走・振り込め詐欺を含め、各種メディアで「認知症」が大きく取り上げられ、社会的な関心が高まっています。当院でも 2009 年秋、公開講座「地域で考えるケアと治療～認知症と共に歩む“診断と治療”」を初めて取り上げ、大好評を博しました。本年度、同 9 回目が 11 月 25 日に行われ、160 名と会場が満員になるほどの参加をいただきました。

当院では、2010 年 7 月から金曜午後に神経内科「ものわすれ外来」が開始され、病院内外でのわかりやすい窓口として活用されています（認知症患者さんは月～金の一般外来でも拝見しています）。メンタルヘルスクリニックの加藤医師は、難しい患者さんの相談に乗って下さっています。2011 年から、蕨佐倉市長が音頭をとって認知症「さくらパス」が始まり、当院の榊原、尾形臨床心理士、治田言語聴覚士による佐倉市ケアマネージャー講習会が 4 回行われました。その結果、佐倉市の地域包括ケアマネージャーの皆様が心理認知検査（スクリーニング検査［ミニメンタルテスト］と前頭葉機能検査 FAB［ファブ］）をつけておられます。全国でも佐倉市が初めての試みであり、当院としてとても誇らしいことです。糖尿病患者さんで血糖を測るように、**「認知症の物差し」**であるミニメンタルテスト・ファブを共有することによって、患者さんのケアがさらに進むものと思います。さらに 2013 年 7 月、当院が千葉県より「認知症疾患医療センター」の指定を受け、昨年に更新を迎え、医師会の先生方と更なる連携を深めています。さらに 2017 年から当院の**「認知症認定看護師」**育成が本格的に始まりました。今回の公開講座は、当院の「認知症医療チーム」と広く関連部署が力を合わせ、初めて実現できたものです。

榊原の総合司会の下、長尾病院長、佐倉市役所福祉部高齢者福祉課課長　島村美惠子様のご挨拶を賜り、講座がスタートしました。第 1 部（診断）では、榊原から認知症疾患医療センター、鈴木ソーシャルワーカーから社会資源、露崎医師よりアルツハイマー病・レヴィー小体型認知症などの説明がありました。第 2 部（治療）では、内科治療（相羽医師）、精神科治療（加藤医師）、脳外科治療（渕之上医師）について説明がありました。第3部（ケア）では、体と心のリハビリテーション（小川理学療法士）、看護（黒沼看護師）、患者さんと家族の心理（尾形臨床心理士）について、さらに認知症の人と家族の会千葉県支部　広岡成子様より、心温まる素晴らしいお話をたくさん頂きました。**「認知症がすべてを壊してしまうわけではない。そこには素晴らしいものが残されていることが多いのです。」**という黒沼看護師の言葉には、心を打たれた方も多かったのではないでしょうか。

参加された皆様には、認知症についての理解を深め、日頃の疑問点を解消し、当院が実施しているトータルケアを十分理解頂けたものと思います。当日のスライドとアンケート集計結果が、病院ホームページにアップされています。ぜひチェックしてみてはいかがでしょうか。

公開講座スケジュール

2017.11.11 現在

2018 年　佐倉病院公開講座のお知らせ

入場無料・申込不要・200 席

ご参加お待ち致しております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと考えております。
当院東棟7階講堂で開催致しますが、昨年9月から開始時間が13時に変更となりました。講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。お問い合わせや講演テーマのご要望がございましたら、総務課にご連絡下さい。

	1 January	2 February	3 March	4 April	5 May
開催予定日	27 日 土曜日 13:00～15:00	10 日 土曜日 13:00～15:00	24 日 土曜日 13:00～15:30	28 日 土曜日 13:00～15:00	調整中
講演予定テーマ	耳と鼻を手術でなおす	妊娠と出産について	＜地域で考えるケアと治療＞歩行障害	前立腺がん	
担　当	耳鼻咽喉科 鈴木 光也 他	産婦人科・看護部 竹下 直樹 他	神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他	泌尿器科 鈴木 啓悦 他	

東邦大学医療センター佐倉病院
臨床病理症例検討会 開催予定
（場所：東棟 7 階・講堂）

第 186 回：1 月 25 日（木）18 時 30 分～
第 187 回：2 月 19 日（月）18 時 00 分～
第 188 回：3 月 22 日（木）18 時 30 分～

地域の医療機関の皆様もご参加いただけます。
（問い合わせ先：教育支援室）

東邦大学
佐倉だより

Vol. 39　2018,1,1

東邦大学医療センター佐倉病院
発行 広報委員会・東邦佐倉会事務局
〒285-8741
千葉県佐倉市下志津564番地1
TEL　043-462-8811(代)
FAX　043-462-8820(代)
URL　http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

基本理念

医療の目的
質の高い医療を安全に提供する病院

病診(病)連携
地域に貢献する病院

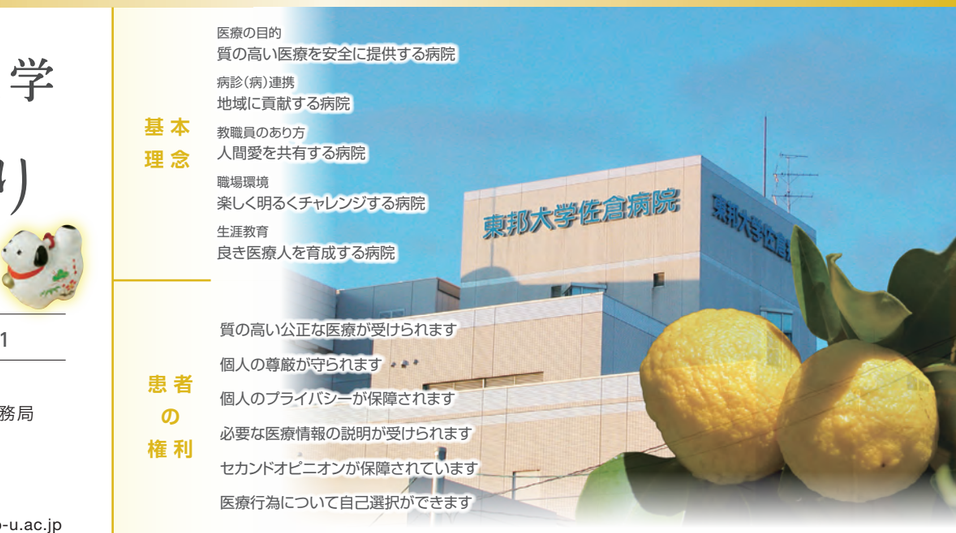
教職員のあり方
人間愛を共有する病院

職場環境
楽しく明るくチャレンジする病院

生涯教育
良き医療人を育成する病院

患者の権利

質の高い公正な医療が受けられます
個人の尊厳が守られます
個人のプライバシーが保障されます
必要な医療情報の説明が受けられます
セカンドオピニオンが保障されています
医療行為について自己選択ができます



Topics News

1 Executive Message
年頭にあたり　病院長　長尾 建樹
2 アピールしたい診療と研究　#14
脳卒中ケアユニット（SCU）開設にあたって　教授　榊原 隆次
3 昇任 ごあいさつ　循環器内科　講師　髙橋 真生
3 医療連携だより　第7回　医療連携学術フォーラムのご案内
医療連携・患者支援センター長　吉田 友英
4 公開講座報告
神経内科　教授　榊原 隆次
4 公開講座スケジュール　／　臨床病理症例検討会のご案内

Toho University
Sakura Medical Center

病院長
長尾 建樹
Takeki Nagao

Executive Message

年頭にあたり

あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げ、旧年中に賜りましたご厚情に深く感謝いたします。教職員一同、「患者さんのために」という揺るぎない基本姿勢を貫き、より安全で質の高い医療を提供できますよう心を新たにして、真摯な姿勢で医療に取り組んで参りますので本年も何卒よろしくお願いいたします。また、昨年発生した西日本を中心とした集中豪雨による被災者の方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

毎年のように発生している自然災害に対して、当院では地域災害拠点病院の指定を受けて以降、人材の拡充を進めており、引き続きDMATチームを中心として災害医療に対する教職員の意識を高めながら整備を継続してまいります。

迅速かつ高度な脳卒中診療が行える脳卒中ケアユニット（SCU）を2017年10月に開設しました。いつでも外科系および内科系の脳卒中専門家による診療が受けられる体制を整え、皆様から信頼していただける高度な救急診療を目指してまいります。

地域医療支援病院として連携を強化するために、2017年1月から、かかりつけ医を持つことを啓発するパンフレットを院内配置し逆紹介の促進や患者さんの理解を深めていただく努力を続けてまいりました。日常の連携において顔の見える関係を築きながら、多職種連携をさらに深化させていくことが、患者さんにとって最善の医療を最適な場所で適切な時期に受けることを可能にし、地域で完結できる医療体制作りの推進力になると考え今後もより一層注力してまいります。これまで同様、医療連携・患者支援センターでは連携だけでなく、広く当院に対するご要望、ご叱責に対して迅速に対応できる体制を整えておりますので、遠慮なくご連絡いただき積極的にご活用ください。

診療報酬改定や消費増税など依然厳しい医療情勢が予測されますが、患者さんに満足していただける医療を続ければ自ずと診療実績は上がっていくと確信しています。そのためには多職種協働による医療連携がキーワードであり、その推進は医療サービスの質の向上だけでなく地域医療にとっても必要欠くべからずものと考えます。この地域に暮らして本当に良かった、と思っていただける医療の提供を目指して地域の医療関係者と一丸となれるよう当院は努力を続けてまいります。関係各位におかれましては、更なるご支援・ご理解を是非ともお願い申し上げる次第です。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして充実した実り多い年になるよう心から祈念して年頭の挨拶とさせていただきます。

アピールしたい
診療と研究 #14

脳卒中ケアユニット（SCU）開設にあたって

教授　榊原 隆次

SCU スタッフ集合写真

東邦大学医療センター佐倉病院は、開設当初から地域での脳卒中（救急車を含む）患者さんの受け入れに尽力しております。脳血管障害は全国で136万人の患者がおり、今後の高齢化社会で増加して2020年には280万人でピークに達すると予測されています。全死因の 4番目（2015年厚労省統計）に位置しますが、65歳以上の高齢者における入院の原因としては、悪性新生物・心疾患を抜いて本邦で最も多いと言われています。病型としては、出血や梗塞により急激に片麻痺や意識障害をきたす脳卒中が代表的です。このうち脳出血には、動脈中膜の異常・動脈瘤に起因するクモ膜下出血と、生活習慣病に伴う動脈の粥状硬化に起因する脳内出血があります。脳梗塞は動脈硬化に起因するものと心房細動などに起因するものに分けられ、全体では脳梗塞の方が多くみられます。このうち脳梗塞の急性期治療として、虚血境界域の脳神経保護薬（エダラボン）、抗血小板薬（オザグレル酸）、抗凝固薬（Xa 因子阻害薬）、発症から4.5時間以内に来院された中等度までの患者さんに対して tPA（組織プラスミノーゲン活性化因子）を、出血に気をつけながら慎重に投与致します。運動麻痺（発症から3か月間、改善が期待されます）・失語等に対して運動・作業・言語のリハビリテーションを行い、千葉県共用脳卒中地域医療連携パスにより、適切なリハビリテーション専門病院へ紹介・転院し、医療連携の推進にも取り組んでおります。これらにより、2/3 の患者さんが独歩での自宅復帰を獲得しています。

この度、当院において、2017年10月に脳卒中ケアユニット（SCU）が誕生し、さらに診療の強化を図ることと致しました。6床からのスタートですが、脳神経外科・神経内科が協力して、365日、24時間、救急車を受け入れ、脳卒中の急性期医療を切れ目なく行うものです。SCU は、医師はもとより、専従の看護師（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師と摂食・嚥下障害看護認定看護師を配置）、理学療法士、臨床工学技士、病棟薬剤師、医療ソーシャルワーカーがタッグを組み、SCU 入室早期から、急性期の治療に加えてリハビリテーション・退院後の慢性期治療・在宅医療に向けて計画的に介入し、脳卒中死亡率および再発率の低下、在院期間の短縮、自宅退院率の増加、長期的な日常生活動作（ADL）と生活の質（QOL）の改善を図ること（脳卒中治療ガイドライン）を目的としております。SCU の役割を充分に発揮して目的を達するため、初期対応の救急外来・病棟や手術室、血管検査治療室、ICU / CCU などの他部署と緊密に連携をしています。さらに、術前後の抗凝固薬の適切な使用、院内・院外への脳卒中予防の啓発･教育活動も視野に入れております。今後、佐倉病院脳卒中ケアユニット（SCU）を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

昇任 ごあいさつ

昇任

循環器内科
講師
髙橋真生
Mao Takahashi

この度、内科学講座の講師を拝命させていただきました髙橋真生です。わたくしは 1998 年に当院へ研修医として赴任し、その後、国内出張を挟みながらずっと当院にて診療をさせていただいております。これまでの循環器診療においては、近隣の諸先輩の先生方や先代の野池教授を含めた循環器内科の上級医の先生方、同輩、後輩の先生方に大きなご尽力をいただき、大変感謝しております。現在、臨床では循環器疾患の救急対応とあわせて、救急カンファレンスや ICU カンファレンスでは司会を行い、多職種間での相互理解の推進を目指しております。外来は、循環器疾患に睡眠時無呼吸の合併が非常に多く、睡眠時無呼吸の専門外来を行っております。患者さんの昼間の疲労感を少しでも軽減させてあげたいと考えております。今後も睡眠時無呼吸患者のみならず、循環器的な専門的検査が必要と思われる患者さんについては、循環器内科との診療の連携のほどよろしくお願い申し上げます。

医療連携だより

第７回 医療連携学術フォーラム のご案内

2018 2 | 24
土曜日
17：00 ～

【場所】　ウィシュトンホテル・ユーカリ
4 階ジャルダン

【問い合わせ先】
東邦大学医療センター佐倉病院
医療連携・患者支援センター
TEL：043-462-8770（直通）

この度、東邦大学医療センター佐倉病院は「第７回 医療連携学術フォーラム」を開催させていただきます。日頃よりお世話になっている地域の先生方・医療関係者の皆様をお招きし、講演会を行うほか感謝の意を表すとともに、より一層の親睦を深める場として懇親会を予定しております。当院からは医師・看護師をはじめ、様々な職種のスタッフが参加し､「顔の見える医療連携」の更なる進展の場に致したく存じます。時節柄ご多用のこととは存じますが、何卒ご臨席賜わりますよう心よりお願い申し上げます。

医療連携・患者支援センター長　吉田 友英

プログラム

第１部　**講演会**　17 時 00 分～

講演１　**学術講演**

『肥満２型糖尿病治療の新戦略を考える』
東邦大学医療センター佐倉病院 糖尿病・内分泌・代謝内科
教授　**龍野 一郎**

講演２　**新しい入退院システムの導入について**

『PFM（Patient Flow Management）導入による当院の役割と地域との連携』
東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携・患者支援センター
副センター長　**京谷 みよ子**

『新しい入退院システムにおける薬剤師の役割』
東邦大学医療センター佐倉病院 薬剤部
部長補佐　**増田 雅行**

『新しい入退院システムにおける MSW の役割』
東邦大学医療センター佐倉病院 医療連携・患者支援センター
主任　**中村 信一郎**

第２部　**懇親会**　19 時 00 分～